



【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

September 2019 9

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2019年9月1日発行(毎月一回発行)第741号

● 出会い・本・人

身勝手ですが、これでもだいじょうぶ 森 言二郎

● 特集 「グリーンケア」を学ぶなら

この三冊！ 藤掛 明

● 本・批評と紹介

関口安義著 評伝 矢内原忠雄 川中子義勝

内坂 晃著 歴史から見たキリスト教信仰 犬養光博

關岡二成著 海老名弾正関係資料 土屋博政

C・ホウトマン著／片野安久利訳

コンパクト聖書注解 出エジプト記Ⅰ 三好 明

堀内 昭著 聖書の植物よもやま話 渡辺憲司

吉田 隆著 ただ一つの慰め 本城仰太

富坂キリスト教センター編 協力と抵抗の内面史 山口陽一

ヴィクトール・E・フランクル著／赤坂桃子訳

夜と霧の明け渡る日に 入江 杏

「本のひろば」バックナンバー表

既刊案内

書店案内

十字架の光の中で詩編の言葉を聴きたい——
日本FEBCの好評番組を全2巻で単行本化

詩編を読もう

下 ひとすじの心を
広田叔弘 (ひろた・よしひろ)

日本基督教団梅ヶ丘教会牧師

詩編を読む「旅」のガイドブック。詩編と新約聖書と現代世界を自由に往還しつつ、詩編を読む喜びに私たちを招く。下巻では詩編の後半から20編を取り上げて解説。

◆四六判・並製・224頁・本体2,000円＋税

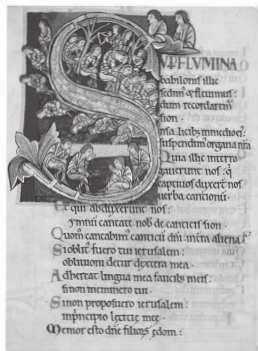
上巻
好評
発売中

詩編を読もう 上巻
嘆きは喜びの朝へ 本体2,000円＋税

詩編を読もう **下**
ひとすじの心を

広田叔弘

HIROTA Yoshihiko



日本キリスト教団出版局

2019年8月23日刊行予定

2019年夏

キリスト教
専門店限定

教会音楽フェア

9/30
月 まで

フェア対象商品全26品から、合計**10,000円(税別)**以上お買い上げで、ご購入総額の**10%相当**の商品を、フェア対象品から選んでもらえます!

対象商品は書籍に楽譜、CD、小歌集など、有益で役立つ商品を厳選!

詳細はホームページをご覧ください。
<http://bp-uccj.jp/publications/2019cmf/>



読み取って
簡単アクセス!

フェアにあわせて
品切れタイトルを特別重版!

- 教会音楽ガイド
- 讃美歌21合唱曲集 3
- 讃美歌21合唱曲集 6





身勝手ですが

これでもだいじょうぶ

—— 森 言一郎

サラリーマン生活を始めた一九八三年頃のことである。当時の私は、内藤陳さんの「読まずに死ぬるか！」が連載されていた『月刊プレイボーイ』を楽しみにしていた。内藤さんの本業はコメディアンだが、無類の読書家にして日本冒険小説協会の会長をなさり、新宿ゴールデン街で「深夜プラスワン」というバーを経営。「ハードボイルドな生き方をするなら、コレを読め」と、命がけて語る内藤さんに気付いた私は、いつしか、本物を感じ始めていた。

ところがである。内藤さんだけでなく、新聞の書評欄などで紹介される本を手にする私は、途中で投げ出すことがよくあった。いや、今でも最後まで読み通すことが出来ない本があるのは、相も変わらずである。

還暦が近くなった私にも、ひとさまに本を読む術すべのようなくことを語る場面が時々ある。その術とは、手にした本が何であれ、応用可能な身勝手な読み方とも言える。一冊の

本の中に、一行、一文。否、たったひと言でも「これだ」と確信するものを掴むことが出来さえすれば、よしとする、というもの。実際、そのような邂逅を与えられた数冊の本を時々引っぱり出しては、しばらく眺め、重ね置き、私は安心して生きている。

数年前『信徒の友』の「神に呼ばれて」に寄稿した拙い証しを、この度刊行された『主よ、用いてください 召命から献身へ』に入れて頂いた。何ともかたじけないことである。「召命」なる言葉すら知らず「照明」と思っていたような者を神は召された。「言ことば」に仕えるつとめに導かれたのも、ヨハネ福音書一章一節「初めに言があった」からの「げん言」一郎」という名と無縁ではないだろう。

日曜日の礼拝に備え『聖書』と向き合い、今ここで、確信をもって語ることが出来るひと言が与えられるようにと祈る日々がこれからも続く。

(もり・げんいちろう) 日本基督教団旭東教会・十文字平和教会兼務牧師



グリーフケアを学ぶなら ▼この三冊！

藤掛明（ふじかけ・あきら）聖学院大学心理福祉学部教授、臨床心理士

グリーフケアという言葉はいつたい日本の社会でどこまで知られるようになったのか。まだ耳にするようになって日の浅い言葉ではないだろうか。一般にグリーフは「悲嘆」と訳され、その典型は大切な人と死別した悲しみをさす。グリーフにケアを付けると、悲嘆にくれる遺族を援助するという意味になる。またグリーフワークという言葉もよく登場するがこれは遺族が自ら悲嘆緩和の作業をすることをさすものである。以前、大学院の修士課程で

「失恋の悲しみから回復するプロセス」を分析したいという院生がいた。これなどは広義のグリーフの研究ということができるだろう。

筆者はグリーフケアの専門家とは言えないが、臨床心理士としてグリーフに苦しむ遺族に関わってきた実務家というなら、多少当てはまるころがある。本稿では、グリーフの臨床のほんの入り口に身を置いている者として、そこから見える風景を三冊の本を通してお伝えすることにした。

なお本を選ぶに当たっては、次の点に留意した。第一に事例がある程度丁寧に紹介されているかどうかである。大切な人を失う悲しみはその人の人生を問い直してくるような経験である。それは同時に援助する側にも起きる。援助者も深い相互作用性の中に身を置き、自らの悲嘆の経験を重ね合わせ、共感しながら寄り添っていくのである。そして援助者も遺族から多くのことを学ぶ。こうした相互作用的な空気を味わうことからグリーフの理解は始まる。だから遺族や援助者が描く物語（事例）を丹念に味わえるものが良い。その点から、大事故遺族に関わった精神科医の渾身の事例報告を最初に選んだ。

第二に、事例を丹念に味わうことと相補の関係になるが、グリーフケアにまつわる活動を俯瞰し、網羅的に扱った本にも注目したい。ただ、多様なグリーフをすべて取り集めると辞書的に

なりかねない。その場合、自死（自殺）遺族にまつわるものから読むことが実際である。遺族の悲しみはどの場合であつても大きく深いのであるが、とくに自死（自殺）遺族の場合は、その死の衝撃性、不条理感、公認されない性質などを背景に、遺族が追い込まれやすく、支援の現場では早くから支援活動が行われている。この点から、二冊目として、自死遺族支援についてある程度網羅的に扱った本を挙げた。

そして第三にそうしたグリーフの理解と手当ては、社会や文化にも支えられてきており、グリーフケアを歴史的、社会的にとらえる視点があるかどうかも重視し、三冊目の本を選んだ。

野田正彰著『喪の途上にて』

一九八五年日本航空ジャンボ機が群馬県上野村山中の御巢鷹の尾根に墜落し、五二〇人が死亡するという歴史的な大事故が起きた。本書は精神科医の

野田正彰氏が、この悲惨な事故の遺族の相談に精力的にあずかる様子を描いた渾身の記録である。相談と言っても診察室のものではない。遺族のいる現場に向いていく。精神医学的な評論文というのに止まらず、それをこえてノンフィクション文学の域に達している（実際、第一四回講談社ノンフィクション賞受賞）。そこには匿名ながら遺族の方々がリアルに登場し、困惑し、怒り、うなだれ、語りかけてくる。事故後の経過だけでなく、それ以前も含めそれぞれの人生が見えてくる。第一章を読み始めるとさっそく遺族が遺体を確認する作業が詳述され、あつと言うまにその世界に引き込まれてしまう。そこで起きているのは、作者が表現するように「遺体を取り戻す戦い」である。読者は、読みながら遺族の置かれた心の収まりの付かない状況を体験することになるだろう。そして遺

体確認ができていない人も、遺体確認ができたことで心の癒しにつながった人も紹介されていくので、読者としては無念を感じたり、ほっとしたりする。これ以降に登場する匿名の遺族たちもそうであるが、喪の途上にて右往左往しながら懸命に生きようとする人たちの姿が伝わってくる。

その後も、それこそ、こどもから老人まで、遺族が登場しその体験を語るのであるが、悲嘆のプロセスや年齢が及ぼす影響などグリーフケアの骨子にも触れられていく。全体が二章構成であるが、「加害者の罪の意識とその回復」、「補償問題」、「マスコミなど「喪のビジネス」なども独立した章でとりあげる。グリーフを担った人間を描こうとする著者の姿勢は最後の最後まで変わらない。

また特筆すべきは本書が九〇年代に著された記録であり、まだグリーフケ

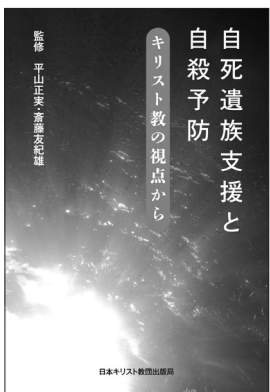


『喪の途上にて—— 大事故遺族の悲哀の研究』

野田正彰：著
岩波現代文庫
2014年刊（単行本は1992年）
A6判462頁
1280円（税別）

本書は、このようなグリーフケアの観点から、近代日本における悲嘆の文化や歴史にまで論を広げ、悲嘆を物語る文学、悲しみを分かち合う「うた」、戦争による悲嘆の問題などを論じていく。そして最後に、悲嘆の専門家（精神

アといった言葉も一般社会では市民権を得ていない時期であることだ。本書が、遺族支援の必要性を社会に大きくアピールした功績は実に大きい。
平山正実、斎藤友紀雄監修『自死遺族支援と自殺予防』
二〇一二年度からキリスト教月刊誌『信徒の友』で本格的な連載が始まった。「シリーズ自死」と題されたその連載は二年にも及び、他の記事に比べ数倍の時間と労力、そして何より神経を使つたと編集者が述べるように、丁寧な取材が重ねられていった。先にグリーフケアにおいては、自死遺族支援が中心になっていると書いたが、本書もまさにそうである。

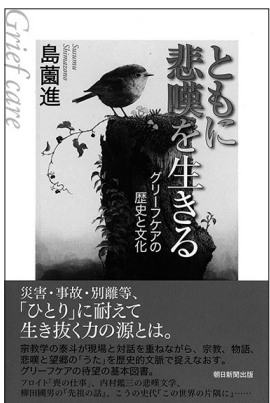


『自死遺族支援と自殺予防—— キリスト教の視点から』

監修：平山正実、斎藤友紀雄
日本キリスト教団出版局
2015年刊
四六判240頁
1800円（税別）

科医や心理士）の発言が増大していくことを認めつつ、それとともに、悲嘆をともしにする新たな文化や場を構築すべきことを訴えるのである。
先に、グリーフケアという言葉はどこまで知られるようになったのかと問

事もひとつの特徴にしており、教会で自死遺族を支えることや自殺予防のあり方、また自死者の葬儀や牧師の自死の問題までも扱っている。
監修者の力も大きいのであるうが、それだけでなく、連載記事の反響として遺族や読者からの手紙が送られてくる中で連載が進んでおり、雑誌の強みを感じさせられる。そこでは相互作用性が働き、取材記者が同時に寄り添う人にもなっていくプロセスがあるようにも思われる。
また本書では、輪郭を描くことについていろいろな工夫が行われている。それは図表の掲載もそうであるが、感心したのは記事ごとに「専門家」「支援者」「遺族」「教会」とマークが付いていることである。たしかにだれに向けた記事なのかということも4つにわかるだけでもかなり読みやすくなる。



『ともに悲嘆を生きる—— グリーフケアの歴史と文化』

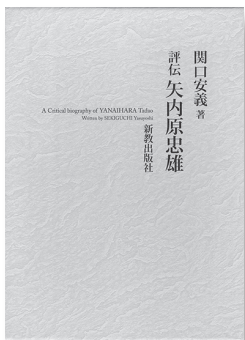
島園 進：著
朝日新聞出版
2019年刊
四六判264頁
1400円（税別）

うたが、おそらくグリーフケアが真に根付くようになったときは、グリーフケアという言葉を使わずに、まったく新しい別の言葉で、運動なり芸術なりささやかな実践なりを呼び表しているに違いない。

島園 進著『ともに悲嘆を生きる』
本書は実践の書ではないが、実践者の心に届いてくる言葉に満ちている。著者によるとグリーフケアの実践が普及し始めるのは、先の日航機墜落から二〇年たったJR福地山線脱線事故からだという。これを契機にグリーフについて多くの書が出て、遺族の専門的なケアや語り合いの場が必要なことが社会として認識され始めたのである。
もともと社会には、ケアやカウンセリングがなくとも、宗教的儀式や社会的慣習があり、また地域共同体の絆があり、遺族は癒され、回復していったのである。それが近年こうしたものが衰退して、遺族が孤立化する傾向にある。だからグリーフケアの場が急速に増えているというのである。確かに、遺族支援で中心的な存在である「自助グループ」も地域共同体を集約させて再現したもののようにも思えてくる。

同時代の人物像や思想動向を 広く視野に収めた評伝

〈評者〉川中子義勝



評伝 矢内原忠雄
関口安義著

矢内原忠雄、その生涯を知る人は今日いかほどか。彼は、日本が大陸に版図を拡大していく時期、東京帝国大学で植民政策を講じた。日本国家とその植民政策の問題性を帝国大学という国家機構の内側から明らかにし、その傲慢な高ぶりと近隣国の虐げを批判した。その預言者的発言ゆえに職を辞することを余儀なくされたが、この「矢内原事件」の後も、「嘉信」を刊行し「国家の理想」とキリストの福音を証言し続けた。敗戦に至るや、真の癒しとして神への立ち返りを説き、「平和」と「民主主義」が国民に根付くよう力を尽くした。以上が彼の生涯の要約である。本書帯文には「いま、なぜ矢内原忠雄か」と記される。明治一五〇年が謳われ、戦争へと邁進した歩みへの懐古の聲が高まる今日、本書から学ぶべき意義は大きい。その画期的刊行を慶び、著者の労をねぎらう。

川（恒藤）恭の「広陵記」や、基督教青年会での友人長崎太郎の研究を、著者は芥川研究のために積み重ねた。そうした芥川研究の裾野をなす著書『恒藤恭とその時代』や『評伝長崎太郎』を著者は援用し、矢内原日記の全集未収録部分を補いつつ叙述を進める。一方、徳富蘆花「謀反論」にふれた矢内原の日記に基づいて、これまでの芥川研究の傾向を批判する。一高に同期で入学した矢内原と芥川の比較は、著者にして初めて可能となった。一世代の全体像が絵巻として描かれる。こうした広い視野のゆえに本書は今後の矢内原研究の土台をなす第一級の文献として位置づけられる。

この書を記す方針として著者は、現地研究、文献、文章の格調とわかりやすさを追求したと述べる。矢内原自身が研究の方法とした参与観察に自らも則り、生地松木を訪問

本稿筆者は、矢内原忠雄が戦後に基礎づけた東大教養学部の教員として、また彼に遡る「東大聖書研究会」の顧問として、彼の生涯と思想を今一度若い世代に伝えるべく、小著『悲哀の人 矢内原忠雄』（かんよう出版）を著した（二〇一六年）。その結びに「矢内原の研究はまだ緒に就いたばかりである」と記したが、その言葉は数年も経たぬ内に覆された。人物研究の進展には、まず生涯や事績が内容豊かな形で記述され、併せてその思想や個々の事績への評価が示されねばならない。さらに、時代の背景や思想動向を顧み、複数の人物研究を踏まえて、広い視野を備えた研究は漸く可能となる。しかし本書は、この二段階目までを一気に飛び越えて成った。本書を読了してその感慨を抱く。本書「あとがき」に著者は、芥川龍之介研究から本書に至る来歴を記す。先だって、矢内原と一高の寮で同室だった井

して資料を収集。これにより早い時期における松木へのキリスト教伝播へ注目。また、矢内原が滞在した山中湖周辺の地理を鮮やかに叙述する。矢内原の学問の特徴として著者は、先見性と批評精神、直観と実証、明快な文章表現を挙げる。その第三点に関連して、矢内原の神戸一中時代の師、奥村與右衛門の歌集を見出し、彼が矢内原の文章力向上に果たした役割に言及する。示唆される点を挙げればきりが無い。書物全体の厚さに見合う長文の引用がなされ、矢内原の文章自体の醍醐味をも味わえる。浩瀚な書ではあるが、関連箇所などを参照したいときは、巻末に備えられた事項索引や本文中に明示された詳しい参考文献が大きな助けとなるであろう。（かわなごよしかつ 東京大学名誉教授）
（A5判・六九一頁・本体八〇〇円＋税・新教出版社）

日本におけるキリスト教のあり方を求めた2人のドラマ



遠藤周作と井上洋治 日本に根づくキリスト教を求めた同志

山根道公

「西欧キリスト教というタブーダブの洋服を日本人である自分の身体に合わせる」ために格闘した遠藤周作と井上洋治。戦友である二人の交わりやドラマに迫る。
四六判・216頁・2000円＋税

日本FEBC好評番組を単行本化



詩編を読むもう 嘆きは喜びの朝へ

広田叔弘

詩編を読む「旅」のガイド。上巻では詩編の前半から16編を取り上げ、キリストを証しする書として読み解く。
四六判・224頁・2000円＋税

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格税別)
http://bp-uccj.jp

日本のキリスト者への 根源的な問い

〈評者〉犬養光博



歴史から見たキリスト教信仰
内坂 晃著

送られてきた本を読んで驚きました。七二頁の小冊子ですが、重い内容に圧倒されます。ぜひ小さいグループで共同討議をしていただきたいと思います。私もそうします。

著者が「ここ一年余りの間に書いたり、語られたりしたものの中から選ばれたもの」とありますが、決してここ一年で考えられたということではありません。長い間の研鑽と体験の中で培われたものが、現在という状況によって引き出されたものではないでしょうか。

第一章「歴史から見たクリスマス」では「クリスマスは神的力を有した神の子が、一時的に人間の姿をまとうて生まれられたということではありません」(六頁)「クリスマスは、神の子の誕生であると共に、救い主の誕生として祝われてまいりました。果たしてそれは、聖書に忠実な見方でしょうか。それは、はなはだ一面的な見方ではないで

でしょうか」(九頁)といった問いを出し、それを「歴史からみたら」どうなるか、詳細に検討されるのです。そして「クリスマスは救い主の誕生日であると共に裁き主の誕生日でもあるのです」(一〇頁)と語られ、わたしたちがいかに、「裁き」抜きの「救い」に浸っているかを問題にされます。

第二章「パレスチナ問題とキリスト教」はこの冊子の中でも一番中心的に語られている論考で、それは私を含めていつの間にか「聖書から」パレスチナ問題を見てしまっているキリスト教信仰を問うておられます。ファンダメンタルな聖書の読み方や、教条主義的な聖書の読み方が「パレスチナ問題」をいかに歪めてきたかを語りながら「ではあなたはどうなのか」と鋭く問われます。もちろん著者自身も、「旧約聖書からパレスチナの歴史をとらえるのではなく、パレスチナの歴史の中で旧約の時代やイスラエル史をとら

えなければならぬ」と村山盛忠牧師から教えられたことを語り、その本を読むことを勧められます。(『パレスチナ問題とキリスト教』(ぶねうま舎)

「キリスト教信仰と天皇制」これは二〇一八年一月に書かれたもので、「天皇代替わり」を控えて、何をすべきかが語られており、「天皇代替わり騒動」が一段落した今、もう一度考え直してみることが要求されています。私も、大嘗祭という人が神と合一する儀式、その宗教的な儀式が隠されて、「宗教でない」と偽り、国民を騙して在り得ていること一つとらえても憲法違反なのに、堂々と行われている異常さに恐ろしくなります。著者は戦時中の日本基督教団の歩みを省みて「御言葉の正しい説教」と「聖礼典の

正しい執行」によって宣教と教会形成がなされてきたにもかかわらず、なぜ、「天皇制」と戦えなかったかと問い、最後に「神観の問題」として、「歴史を支配し、歴史を裁く神をきちんと伝えてきたか」(七〇頁)と問われます。

現代の日本のキリスト者にとって、緊急の課題ばかりです。それらの課題について一応は知っているつもりでいた自分のいい加減さを知らされます。そしてこの本は、私のようなあまり本を読まず、「現場、現場」と言い張っている者が考えている、「問題」と同じ結論を提示しています。

(いぬかい・みつひろ 日本基督教団平戸伝道所協力牧師)
(A5判・七四頁・本体八〇〇円＋税・キリスト新聞社)

キリスト新聞社の本

バックボーン

キリスト教的背景を知るだけで、映画はこんなに楽しめる!



服部弘一郎著

銀幕の中のキリスト教

「一見キリスト教とは無関係に見える映画の中に隠された、キリスト教的テーマやモチーフを追う。」

『ベン・ハー』などの古典的名作から現代ハリウッド映画まで、アニメからホラまで、洋の東西やジャンルを問わず、全49作を独自の視点から徹底解説。「キリスト新聞」Ministry」の連載に、スポットライト、世紀のスクリーン、『沈黙』『サイレンス』などの論評と牧師との対談も加えて単行本化。誰もが知る名作のものごとの楽しみ方を見ることができる、他に類のない映画批評集。

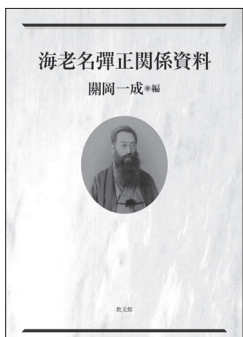
A5判・並製・142頁・本体1,700円＋税

キリスト新聞社 since 1946

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL. 03-5579-2432
E-Mail. support@kirishin.com

海老名の再評価への道

〈評者〉 土屋博政



海老名弾正関係資料
關岡一成著

この度關岡一成氏が『人になれ人、人になせ人——クリスチャン・サムライ海老名弾正』、並びに『海老名弾正関係資料』の二冊を上梓された。これらは關岡氏の長年にわたる海老名研究の総決算ともいえる成果である。

私が書評を頼まれたのは後者であるが、まずは近代キリスト教の一研究者として、氏の徹底した海老名に関する資料調査の労に謝したい。この本の書誌目録は研究者だけでなく、海老名に関心を持つ読者にとって、大変ありがたいものである。

また氏が資料として海老名による横浜・熊本・札幌バンドの特色、並びに海老名自身による本多、山路、植村、内村の人物評、他者の海老名評を取り上げたのは卓見である。なぜなら一つには、海老名の見方の中に彼の特徴が出ているからである。もう一つは、他の人による各バンド観が並

でどんなに相手と相違していても、穏やかにしていられるのである。相手との共通点を基本にしていれば、その違いに感情的に反応する必要がないからである。

次に私がこの本で感じることは、關岡氏の研究特徴が、資料をして事実を語らしめようとしている姿勢である。従って、読者は海老名を公正に見ることができる。また私が感心したのは、海老名の人物像を見るのに、通例他者が海老名をどう捉えていたかに集中するが、關岡氏があえて海老名の他者評を加えたことである。他者に対する人物評の中に海老名の特徴を見るところに關岡氏の慧眼がある。確かに、他者を語る評の中に海老名らしさがよく出ている。それは海老名が相手の性格や考えにおける長所と短所を併置していて、たとえ自分とは異なる考えであっても、その人の立場で理解していることである。これは海老名が倫理的、哲学的、歴史の見方を重視したこととも関係する。歴

べられることで、より包括的な視野が得られるからである。

これらの資料を読んで感じることは、海老名の他者批評で必ずと言っていいほど、その人の短所だけでなく、長所も語られることである。彼は他のキリスト教界の指導者とも異なり、円満で愛嬌があると言われたが、それは単に彼の性格によるものでない。彼の宗教思想によるものでもある。

關岡氏は『人になれ人、人になせ人』において、海老名が人間観の中心を「良心」に置いたことで、武士道からキリスト教に容易に接ぎ木できたばかりか、武士道の完成が「父なる神の子になる」キリスト教にあると見なすことができたこと示された。この「良心」を基本において人間を見るならば、キリスト教の教義上の違いは、それほど大きな問題でなくなる。海老名がそれぞれの違いを認めながらも、必ず互いにおける共通点を見ていたからこそ、教義や思想

史的に見ると全て相対化されるからである。しかし彼の根底に人間における良心観と、人間はみな神の子であるという見方があるから、悪しき相対主義にならない。例えば、内村鑑三が海老名らの熊本バンドのキリスト教を国家主義、植村らの横浜バンドを教会主義、内村らの札幌バンドを精神主義と特徴づけて、互いの違いを指摘した時、海老名がそれに反論して、内村が独占しようとした精神主義を互いに共通するものとしたことである。共通点を重視したあたり、海老名の面目躍如たるものがある。寛容が叫ばれる今日、海老名の見方は再評価されるべきである。

海老名の国家主義や反三位一体説は、反対者からのものが世に知られたため、誤解されてきた。読者は本書によりこれまでの海老名に関する見方を変えられるであろう。

(つちや・ひろまさ 慶應義塾大学名誉教授)

(A5判・三三〇頁・本体三二〇〇円＋税・教文館)

先入観を捨て、 テキストを注視する

〈評者〉三好 明



コンパクト聖書注解
出エジプト記I
C・ホウトマン著
片野安久利訳

聖書の教える救いとは何か？ それを知るためには、旧約聖書の出エジプト記を正しく理解する必要がある。しかし、出エジプト記は現代の人々にとって難解な書である。なぜ主はエジプトの王の心をかたくなにされたのか？ エジプトの初子の死やエジプト軍の全滅の記事は残酷ではないか？ なぜイスラエルの民は繰り返しモーセに反抗するのか？ 現代において出エジプト記を読む人々は、このようなさまざまな疑問を抱かずにはおれないだろう。

この註解書において、著者のホウトマンは出エジプト記のテキストを忠実に読み解いて、救いとは何かということをも明瞭に浮かび上がらせている。この註解書を読む者は、ホウトマンが「筆者は〜」というコメントを頻繁にしていることに気づく。ホウトマンは序文において、出エジプト記の「筆者（編集者）の意図に集中することでこの註解書

は一貫している。筆者はこの物語をどのように運んで行ったか。どのような効果を読者や聞き手にもたらそうとしたか。どんな反応を引き出したいと願っていたのか」（一〜一二頁）と記している。また、「読者は〜」というコメントも非常に多い。この「読者」とは、「出エジプト記そのものの徹底的研究に基礎づけられる」古代イスラエル人の読者のことである（一二頁）。

ホウトマンは古代イスラエルの筆者から読者へと伝達された意味を読み取り、それを現代の出エジプト記の読者に伝達しようとする。ホウトマンは「筆者と最初の読者や聞き手と二〇世紀の読者との間にある文化的ギャップに橋をかけた」（一二頁）という願いをもっているのである。したがって、この註解書の読者は、自分の先入観を捨てて、ホウトマンの叙述に従い、出エジプト記の「筆者と最

初の読者」の間で伝達されたテキストの意味に集中することが求められる。そして、そうすることによって、出エジプト記についてのさまざまな疑問に対する答えも思いがけず示されるであろう。ホウトマンの解説はあくまで出エジプト記のテキストに忠実である。しかし、旧約聖書の枠内にとどまることなく、イエス・キリストの十字架（一九五頁）、さらには罪からの解放と終末論的な救いへ（二二二〜二二三頁）についてもはっきりと言及する。

ホウトマンはオランダのキャンペン神学大学教授であり、出エジプト記の浩瀚な註解書を執筆している。本書にも時

おり「私の大註解書を参照して欲しい」との記述が見られる。本書に該当する部分については、次の二冊を参照していただきたい。Cornelis Houman, *Exodus*, vol. 1, trans. Johan Rebel and Sierd Woudstra (Kampen: KOK Publishing House, 1993) 及びidem, *Exodus*, vol. 2, trans. Sierd Woudstra (Kampen: KOK Publishing House, 1996). 訳者の片野安久利牧師の労に感謝したい。（みよし・あきら＝日本キリスト教会志木北伝道所牧師、日本キリスト教会神学校旧約学主任講師）（四六判・二三二頁・本体三五〇〇円＋税、教文館）

ヨベルの新刊案内

第三三回読者賞受賞
しなやかな筆致にまみれた
五〇年以上前
からあった

福田節子
心ノノート

毎日新聞、千葉新聞、愛媛新聞、京都新聞、岐阜新聞、東興日報、次城新聞等各紙絶賛！ 重版準備中！

子どもたちがノート
を書き続けることに
よって、物事を見つ
めるまっすぐな目と
心を養った記録。

四六判・一八〇〇円

医学博士・平安女
学院大学名誉教授 **工藤信夫**
トウルニエを読む！

キリスト教的人間理解
の新たな視点求めて
改訂新版として本書を
再び世に問う。「人生
の四季」「結婚の障害」
「生の冒険」を中心に
展開。46判・1,500円
『暴力と人間』重版準備中

中央学院大学 / 愛知
教育大学名誉教授 **黒川知文**
ユダヤ人の歴史と思想

世界中で連続と行われ
てきたユダヤ人迫害
と恣意的に解釈された
「聖書」、災禍に見るユ
ダヤ人固有の諸思想を
専門家から詳説。

8月末重版出来！
四六判・336頁・1800円

日本イエス・キリスト
教団西舞鶴教会牧師 **鎌野善三**
3分間の
グッドニュース 「福音」

聖書各巻の一章ごとの
要諦を3分間で読め
る平易なメッセージに
まとめて、大好評を博
した「3分間のグッド
ニュース」全5巻を「聖
書新改訳2017」に準
拠して出版する改訂新
版第3弾！

【歴史】、【詩歌】篇
好評発売中！ A5判・304頁・1,600円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税別)

聖書とくもに
身近な植物と新たに出会う

〈評者〉 渡辺憲司



聖書の植物よもやま話
堀内 昭著

読後、ここに記された植物に出会うと、実にいとおしい
思いついた。植物事典ではない。かといって気ままな随
筆といった類のものでもない。時々先のページをめくりた
い衝動に駆られたが、その日一日を大切にしたいような気
持で本書をゆっくり読んだ。枕元に本書を置き、一晩に一
項目ずつ読み進みほぼ一か月。一項目読み終わると日記帳
のかたすみにその日読んだ植物の名前を記したくなった。

本書の基になっているのは、『聖書のかぐ散歩』（聖公
会出版、二〇一二年）に収録された一六種の植物である。

これに新たに二三種の植物が書き加えられている。1「実
と花の木の話」、2「生活に欠かせない植物の話」、3「ス
パイスとハーブ、香料の話」。以上が章立て。

1 りんご・アンズ・いちじく・なつめやし・エトログ
(シトロン)・ゆり・ハスとスイレン・糸杉・レバノ

近なもの。「よもやま話」とあるから、対象とする植物に
関する話題は実に多方面にわたっている。しかし本書はウ
ェブ・百科の書ではない。聖書の世界へ植物を手掛かりに
読者は筆者とともに旅するような感覚に陥らせる。それは、
解説の中でしばしば筆者が絶妙のタイミングで登場するた
めである。

麦(ビール)の項目では、最初の語りは、「夏に猛暑が続
くと、夕方になるとビールで喉を潤したい気分になり、陽
が落ちるのが待ち遠しい」と始まる。私などはこの一文で
本書のとりこになる。そして店ごとに代わるドイツのビー
ルの味、そして函館の地ビールの話と読者をひきつける
(ちなみに函館は評者の故郷、函館ビールは濃いめのビー
ルでイカ刺しに絶妙)。

そして申命記三二章一四節の「深紅のぶどう酒、泡立つ
酒を飲んだ」とある「泡立つ酒」が、ビールであるとし、
さらに「新しいぶどう酒」(使徒二・一二)もビールであろ
うと云い、さらに民数記六章三節の「濃い酒」もビールのこ

ン杉・柳・すずかけ・とうごま(ヒマ)。

2 オリーブ・ぶどう・きゅうり・玉葱・アーモンド・
きびとモロコシ・麦(小麦・大麦・毒麦)・麦(ビー
ル)・パピルス・亜麻と麻・ワタ(綿)・桑(絹)・
ベニバナ・サフラン。

3 コエンドロ(コリアンダー)・月桂樹・コフェル(ヘ
ンナ)・ミルトス(銀梅花)・からし種・薄荷(ミン
ト)・いのんど(デイル)とクミン・アロエ・沈香樹・
シナモン(肉桂)・白檀・乳香と没薬。

各章の初めには、関連の聖書の個所が提示され、自分と
各植物との出会い、仏教・神道にまで及ぶ関連事項、さら
に当該植物での町おこしにまで言及する。

3のスパイス等の項目には植物に疎い私には目新しいも
のも並んでいるが、1、2に上がっているのはいずれも身

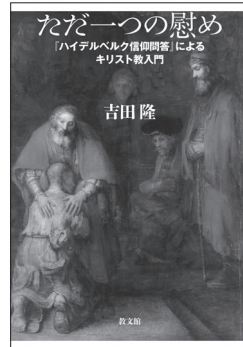
とであろうと聖書考古学の月本昭男氏の説を紹介、それに
影響されて、新しい聖書協会共同訳が「麦の酒」としてい
ると指摘し、ビールによる放射線防御効果にまで言及する。
考証は従来の説の引用さらに最新の学説と目配りがよくき
いている。申命記三二章と言え、モーセが四十年に及ぶ
放浪生活からヨルダン川を渡り約束の地カナンの地に入っ
ていく前に行った説教「モーセの歌」の一部。モーセもビー
ルで乾杯か、「函館ビールもそのビールと味は近いに違いな
い、などと思いをめぐらすのも楽しい。本書によって聖書
への新たな興味がわいてくることも請け合いです。

筆者は、化学が専門の理学博士。大学学生部で学生指導
の指導的役割を果たしてもいたと記憶する。科学者の目と
ヒューマンな思いそして該博な知識があいまった本書。聖
書に導く良書であるとともに身近な植物へのぶらぶら散歩
にも必携の書である。

(わたなべ・けんじ) 自由学園最高学部長・立教大学名誉教授
(A5判・二六八+口絵八頁・本体一八〇〇円+税・教文館)

「慰め」をキーワードに学ぶ 最良のキリスト教入門

〈評者〉**本城仰太**



ただ一つの慰め
『ハイデルベルク信仰問答』による
キリスト教入門
吉田 隆著

「聖書は、たとえて言えば、海のようなです。海の本当の豊かさ・すばらしさは、実際に海とたわむれ、海と共に生活してみなければわからないでしょう。あるいは、聖書は、深い森のようなです。その奥深さ・神秘さ・驚きも、実際に足を踏み入れてみなければ味わえないに違いありません」(四頁、三二二頁)。

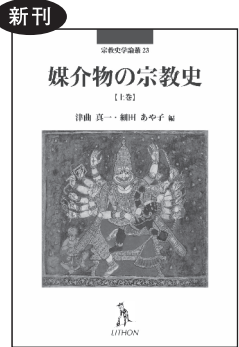
これは、本書の「はじめに」と「おわりに」に出てくる言葉です。著者が聖書をどのようにとらえているか、そして聖書とどのように向き合っているか、その姿勢がよく表現されている言葉です。広大な聖書を迷うことなく旅するために、私たちにはガイドマップが必要です。ハイデルベルク信仰問答は「慰め」という言葉をキーワードにしている聖書のガイドマップです。歴史的に見れば、ハイデルベルク信仰問答は信仰教育のために用いられてきました

踏まえ、著者は「当時のヨーロッパで、信徒が自分の言葉で自由に祈ることはまずありませんでした。……ラテン語で(呪文のように!)唱えるだけだったことでしょう」(二七〇頁)と語ります。教会が改革され、プロテスタント教会が生まれて、祈りが変わってきたのです。それではそのような歴史を踏まえ、私たちはどう祈ればよいのでしょうか。「神がわたしたちからお求めになることは感謝の言葉、すなわち、ありがとうございます(=祈り)」(二七二頁)と語ります。ありがとうございますを言うために、私たちは祈りが必要なのだとハイデルベルク信仰問答は言います。罪と悲惨の中にあり、自分で自分を救えない私たちを、キリストによって神が救ってくださった。その感謝を表す祈りの生活へと、当時の人たちだけでなく、現代の読者である私

ちをも導いているのです。

このように本書は、私たちの実際の信仰生活に深くかわつてきます。一人で読んで信仰の足腰を鍛えてもよいでしょうし、教会の仲間たちといろいろなことを語り合いながら読書会を始めてもよいでしょう。受洗準備のためのテキストとしても最適です。ハイデルベルク信仰問答をもっと深く知りたい方は、あわせて、ビエルマ編、吉田隆訳『ハイデルベルク信仰問答』入門―資料・歴史・神学(教文館、二〇一三年)やビエルマ著、吉田隆訳『ハイデルベルク信仰問答』の神学―宗教改革神学の総合(教文館、二〇一七年)を参照されるとよいでしょう。

(ほんじょう・こうた) 日本基督教団中渋谷教会牧師
(四六判・三三〇頁・本体三三〇〇円+税・教文館)



宗教学論叢23

媒介物の宗教史

【下巻】

津曲真一・細田あや子 編

●A5判上製 本体4,000円+税

藤原達也 仏像の誕生／日沖直子 出口王仁三郎の「耀盤」―霊術から芸術へ／津城寛文 和歌の宗教学／三津間康幸 古代メソポタミアの占星術における「媒介するモノ」／葛西賢太 食物を通して身体と出会う―「食べる」ことの意味を冥想する／高橋直子 読者と〈あの世〉を媒介する―婦人雑誌『主婦之友』を事例として／木村武史 ロボット・AIと宗教についての序論的考察／他6篇を収録。

ISBN978-4-86376-073-8

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

歴史への新たな アプローチとなるか

〈評者〉 山口陽一



協力と抵抗の内面史

戦時下を生きたキリスト者たちの研究
富坂キリスト教センター編

本書は、富坂キリスト教センターの「戦中・戦後の日本の教会 戦争協力と抵抗の内面史を探る」研究会」の成果を読みやすく提供している。H・E・テート『ヒトラー政権の共犯者、犠牲者、反対者——〈第三帝国〉におけるプロテスタント神学と教会の〈内面史〉のために』（創文社、二〇〇四年）に触発されたこの研究は、戦争「協力者」や「抵抗者」といった一面的な評価を克服する方法として個人の内面に注目する。

I部（国内）

大久保正禎「『日本的基督教』への道のり 今泉源吉のあゆみ」。森明や高倉徳太郎の感化を受け、法律家として宗教案案反対運動を主導した今泉は、やがて極端な日本的キリスト教である「みくに運動」を提唱する。大久保は「今泉は、森明からは日本人の民族性の信仰的位置づけを、高

倉徳太郎からは国家の聖化の思想を受け取った」と観る。上中栄「罪責感について ホーリネス史から考える戦争責任」は、戦時下の弾圧を受けた当事者と彼らの責任を問う者の「葛藤のなさ」を問う。桑田秀延の証言は「ホーリネスを切り捨ててもいいし、擁護もしていない」とし、書かれた「調書」と牧師たちが書いた「上申書」の間に「内面」を読む著者の「内面の葛藤」が滲む記述である。

戒能信生「戦時下説教の実像 大連西広場教会月報『霊光』を中心にして」は、東京神学社の教会史教授から教員七四〇名の西広場教会に赴いた白井慶吉牧師の祖国愛が、日中戦争期から積極的な戦争論・時局論に転じる軌跡を丹念に辿る。戦後、白井は弁明も弁解もなく日本基督教団議長まで務める。その沈黙に「内面」を窺う難しい試みである。矢吹大吾「戦時下を生きた牧師 廣野捨二郎」は、東京

大空襲で教会を守りつつ長男と共に召天した本所福音教会（現日本基督教団本所緑星教会）牧師の十八通の手紙から、時局に迎合することなく召命に応えた姿を描く。

II部（東アジア）

徐正敏「日本統治末期の朝鮮における信仰弾圧とクリスチャンの内面分析 朴允相と孫良源のケース」は、朝鮮ホーリネス教会の信徒朴允相と朝鮮長老会の孫良源牧師への弾圧を分析し、これが単なる神社問題・政治的弾圧ではなく、天皇崇拜と再臨思想をめぐる「天皇宗教」とキリスト教の「教教葛藤」であるとするとする。

李省展「植民地期朝鮮における『信教の自由』『改正私立学校規則』と『神社参拝問題』をめぐって」は、朝鮮の王権と宣教師の親密性、朝鮮の教育におけるミッションスクール優位の明らかにし、朝鮮総督府の弾圧と「信教の自由」の戦いをアメリカ北長老派の宣教師資料から浮き彫りにする。

高井ヘラー由紀「戦時期台湾におけるキリスト教徒の『内

面』を問う」は、「抵抗」と「協力」の二項対立でない台湾の場合を、日本人教職者の上與二郎、台湾人信徒李嘉嵩などの「内面」から探り、台湾人キリスト者が「抵抗」せず、日本の教会と共に「伝道報国」を唱えながら内に秘めていた憤り、屈辱感、苦痛に迫る。

渡辺祐子「宣教師の見た日本人牧師『満洲国』のキリスト教界を例として」は、スコットランドとアイルランドの宣教師の目に映った満洲の日本人伝道者を追い、渡部守成と平野一城の姿勢を評価するが、彼らも一連の事柄を「信仰告白の事態」とは捉えなかつたとする。

III部（方法論とまとめ）

山崎和明「H・E・テートの内面史研究」は、本研究の出発点の確認であり、最初に読まれるべきものであろう。巻末の「共同討議」と合わせて、「内面」史研究の必要・重要性とそれが「歴史修正主義」に陥る危険性にも言及する。

（やまぐち・よういち＝東京基督教大学学長）

（四六判・二七四頁・本体二〇〇円＋税・新教出版社）

「生存者」の責任を
果たそうとする志

〈評者〉入江 杏



夜と霧の明け渡る日に
未発表書簡、草稿、講演
ヴィクトール・E・フランクル著
赤坂桃子訳

世界的名著誕生の背景を明かす本書の魅力の一つはフランクルの「声」だ。赤坂桃子氏の名訳にも因るうが、収録された講演や書簡から、フランクルの「声」が響いてくる。「夜と霧」は、陰惨な記録でも、怒りによる告発の書でもなく、「人間精神の気高さ」を伝えたことで、多くの人々に勇気を与えた。フランクルはその書を携えて講演し、「声」でも精力的にメッセージを届けた。

「どんな時にも人生には意味がある、人生の方があなたに問いかけている、あなたはその問いかけに応えることができる。」そのメッセージは、警咳に接することによりストレートに届けられ、多くの人の魂を震わせたに違いない。フランクルは、強制収容所にいた時、いつかこんな講演をしたいと空想していたことを本書の中で披露する。極限での生と死を分けるのは、未来に対して希望を持ち得ている

いた「夜と霧」。

「私たちの存在はまさに責任存在である」と語られる「責任」。日本語の辞書を「責任」を引くと、まず「責め」とある。だが、本書との出逢いにより、フランクルの発する「責任」という言葉には「責め」のニュアンスがないことに気づかされた。

よく知られるフランクルの「コペルニクスの転換」は、人生の様々な状況に直面しながらその都度「人生から問われている」ことに全力で応えていくこと。文字通り、応答すること、それが「responsibility」「責任」なのだ。

「生き残った人間は、アメリカの精神分析家が主張しているような罪悪感、「サバイバーズ・ギルト」に悩むのではなく、むしろ大きな責任感、……生存者の責任、すなわち「サバイバーズ・レスポンスピリティー」を感じざるをえません。」(三八頁)

事件後に「なぜ妹たち一家を救えなかったのか？」の問

か否か。講演者としての自分を空想することで、恐ろしい

周囲の世界から、精神の自由へ逃がれる道を拓いていたのだろうか？ 内なる声を発しつつ、講演する自分をビジュ

アライズすることで、内的な豊かさが育まれるなら……。なんと励まされることか、私自身も一講演者だから。自分をフランクルに準^まえるのも気が引けるが、私も拙著「悲しみを生きる力に」(岩波ジュニア新書)と同じタイトルで各地を講演する。二〇〇〇年末の世田谷一家殺人事件で妹一家を奪われた経験をもとに、悲しみと生きるこの意味を語りかけているのだ。

本書のもう一つの魅力は、個人史と時代史の二つの文脈が初めて明確に交差することで、『夜と霧』の現代性が一層際立ったことではないか。時代により読まれ方が変わり、相が変わるのは名著たる所以だ。私自身、折に触れて紐解

いに苦しめられ、希死念慮さえ抱いた私。「サバイバーズ・ギルト」(遺族の罪責感)という名付けにより、遺された誰しもが苦しめられる感情と知った。が、名付けの先には責任があった。

『現代思想』二〇一三年四月号のフランクル特集号で私が対談させていただいた批評家の若松英輔氏は語る。「夜と霧」には狭い意味での「自分」の思いは書かれていない、沈黙の語り手たちの「声」に導かれ、自分に託されていることをフランクルは書いた、だから強いのだ、と。「不可視の協同する隣人」は、生還できなかつた最も善き人々。その「声」を受け取り、聴き、伝えよう。かそけき声はやすやすとかき消されてしまう世の中だからこそ、発せられない「声」に気づき、耳を傾け、応答し続けることで、生存者の責任を果たしたい。

(いりえ・あんり上智大学グリーフケア研究所非常勤講師)

(四六判・三〇六頁・本体二四〇〇円＋税・新教出版社)

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunshyo.or.jp>

2019年4月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：聖書本文を読む大切さ 鈴木佳秀		
特集：「十字架の贖罪」を学び直すには、この三冊！ 森島 豊		
マックス・ヴェーバー「倫理」論文を読み解く	キリスト教史学会編、教文館	阿久戸光晴
高齢社会と教会	関西学院大学神学部編、キリスト新聞社	山本 誠
ルターの脱構築	江口再起著、リトン	宮本 新
小川修パウロ書簡講義録10	小川修著、リトン	竹田純郎
カタリナ・シュッツ・シエル	E.A.マッキー著、一麦出版社	芳賀 力
詩篇の思想と信仰Ⅵ	月本昭男著、新教出版社	日原 広 志
新キリスト教組織神学事典	東京神学大学神学会編、教文館	渡邊 義 彦
聞き書き 加藤常昭	平野克己編、教文館	深田未来生
神の国と世界の回復	稲垣久和編、教文館	寺園 喜 基
福音とは何か	佐藤司郎他編、教文館	芦名 定 道

2019年3月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：精神的な自由」をもつ者とは 小嶋リベカ		
特別企画：「手塚治虫の旧約聖書物語—DVD9枚組」(教文館) 高橋優子、北 博		
平和とは何か	W.ブルグeman著、教文館	志村 真
VTJ旧約聖書注解 出エジプト記19-40章	鈴木佳秀著、日本キリスト教団出版局	下田尾治郎
しかし勇気を出さない	K.バルト著、日本キリスト教団出版局	平林孝裕
アメリカ現代神学の航海図	栗林輝夫著、新教出版社	芦名 定 道
きりしたん受容史	東馬場郁生著、教文館	長谷川(間瀬) 恵 美
あまつましみづ	永田圭介著、教文館	湊 晶 子
聖書における背きと回帰	日本キリスト教詩人会編、教文館	本 多 寿
老いて聖書に聴く	渡辺正男著、キリスト新聞社	久世そらち
「ロマ書」の人間学	葛生栄二郎著、キリスト新聞社	崎 川 修
蛇のようにさどく鳩のように素直に	広瀬恵一郎著、ヨベル	月岡伊佐
輝く明けの明星	平野克己編、日本キリスト教団出版局	瀬谷 寛

2019年7月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：神谷美恵子の著作をめぐって 釘宮明美		
特集：「感性を高めるキリスト教美術書」ならこの三冊！ 吉松 純		
ヤスバースとキリスト教	岡田 聡著、新教出版社	茂 牧 人
教会はイザヤ書をいかに解釈してきたか	B.S.チャイルズ著、日本キリスト教団出版局	鎌野直人
初期キリスト教の宗教的背景 上・下	H-J.クラウク著、日本キリスト教団出版局	浅野 淳 博
「若者」と歩む教会の希望	原 敬子他編著、日本キリスト教団出版局	李 聖 一
キリスト教哲学序論	春名純人著、教文館	市川康則
ヒッポリュトス全異端反駁	ヒッポリュトス著、教文館	山本 巍
なみだ流したその後で	上林順一郎著、キリスト新聞社	山北 宣 久
カール・バルトとエキュメニズム	佐藤司郎著、新教出版社	中道基夫
命のファイル	佐々木哲夫著、教文館	小友 聡
笑いと癒しの神学	長谷川正昭著、ヨベル	西原 廉 太
創世記講解 上	潮 義男著、ヨベル	古賀 博
座談会 『聖書 聖書協会共同訳』を翻訳して 阿部 包、飯 謙、春日いづみ、吉田 新		

2019年6月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：出会いとは必然 水口 洋		
特集：「トランプ現象」を知るためにはこの三冊！ 大宮有博		
教会に生きる喜び	朝岡 勝著、教文館	加藤 常 昭
DVDカール・バルトの愛と神学	P.ライヘンバッハ監督、新教出版社	佐々木 潤
視点を変えて見てみれば	塩谷直也著、日本キリスト教団出版局	大嶋重徳
説教黙想アレティア 死に勝つ慰め	日本キリスト教団出版局編	岩崎 謙
3分間のグッドニュース「歴史」	鎌野善三著、ヨベル	大頭 真 一
「新」キリスト教入門(1)	新免 貢著、燦葉出版社	島 蘭 進
改革派教義学7 終末論	牧田吉和著、一麦出版社	長山 道
カルヴァン政治思想の形成と展開	住田博子著、新教出版社	千葉 真
希望する力	佐原光児著、新教出版社	深田未来生
西郷隆盛とキリスト教信仰	館 正彦著、キリスト新聞社	真壁 巖

2019年5月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：サンタクローズの部屋 柳下明子		
特集：「天皇制とキリスト教」を学び直すにはこの三冊！ 戒能信生		
いつも喜びをもって	加藤常昭編、教文館	及川 信
C・S・ルイスの読み方	A.E.マクグラス著、教文館	釘宮明美
怒って神に	上沼昌雄著、ヨベル	千葉 恵
老教師の聖書レッスン	平塚敬一著、小学館	水口 洋
古代ギリシア教父の霊性	久松英二著、教文館	阿部 善 彦
始まりのことば	片柳弘史著、教文館	望月 麻 生
サビールの祈り	ナイム・アティーク著、教文館	山口 里 子

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本 キリスト教書店大賞2019

2018年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から、
全国のキリスト教書店員の投票により **大賞が決定!**



オススメ
北九州キリスト教ブックセンター 原口悦子さん
平易な言葉にぴったりの写真が素敵な、加齢を自然に、肯定的に、そして神への信頼に生きる生き方へと導いてくれる本です。



**わたしはよろこんで
歳をとりたい**

イェルク・ツィンク 著 眞壁伍郎 訳
1,200円+税 こくま社

受賞のことは
「毎晩寝る前に少しづつ読んで、慰められています」と、たくさんの方からお声がけいただきました。日本語で読めて嬉しいとお便りくださった外国在住の日本人の方もおられます。夕暮れになっても光がある。訳しただけの者にとっても嬉しい限りです。
訳者 眞壁伍郎



わたしの信仰
キリスト者として行動する

アンゲラ・メルケル 著
フォルカー・レージンク 編
松永美穂 訳
2,300円+税
新教出版社

オススメ
善隣館書店 大森紀代さん
メルケル独首相の難民に向けられたまなざしは寛容で、その決断力や行動力の秘密がこの1冊で知ることができる。



聖書入門
上馬キリスト教会の
世界一ゆるい
聖書入門

上馬キリスト教会 著
1,300円+税
講談社

オススメ
CLC BOOKSお茶の水店 内藤優祐さん
SNSからの書籍化にキリスト教会が参入した記念すべき一冊。一般社会とキリスト教界、双方に大きなインパクトを与えた。

他のノミネート作品 (タイトル50音順)

うつくしいもの

八木重吉 信仰詩集
八木重吉 詩
おちあいまちこ 写真
1,200円+税
日本キリスト教団出版局

教えてパスターズ!!

朝岡勝/大嶋重徳 著
1,500円+税
キリスト新聞社

1分間の黙想 心からの祈り

カレン・ムーア 著
日本聖書協会 訳
1,800円+税
日本聖書協会

55歳からのキリスト教入門

イエスと歩く
小島誠志 著
1,200円+税
日本キリスト教団出版局

聖書 聖書協会共同訳

引訳・注付き(右)
特価 4,800円+税
定価 5,300円+税
旧約聖書補編付き
引訳・注付き(左)
特価 5,400円+税
定価 6,100円+税
日本聖書協会

始まりのことが

始まりのことが
聖書と共に歩む日々366
片柳弘史 著
「いいね!」大賞
900円+税
教文館

和解への祈り

桃井和馬 写真・文
2,000円+税
日本キリスト教団出版局



キリスト教書店大賞のページで「いいね!」をクリックして最新情報をGET!

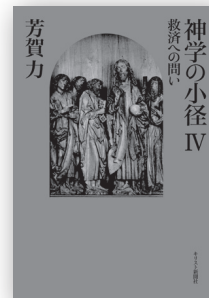
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>



読者が選ぶ「いいね!」大賞の結果やキリスト教書店大賞の詳細は上記フェイスブックページをご覧ください。QRコードで簡単アクセス!

物語る教会教義学シリーズ

神学の小径Ⅳ 救済への問い



神の救いの物語を
わたしの物語とするために。
聖書は人を神のストーリーと出合わせ、
そのストーリーに生きるように招く。
本書は現代にあって、
キリスト者の救済信仰を
神学的に確かな方向に導く案内図である。

東京神学大学教授 芳賀力 著
■A5判・上製・418頁・4,300円(+税)

東京神学大学教授で日本を代表する組織神学の研究者による教義学シリーズ。神の啓示、救済の出来事、終末の完成を、文学的な読みではなく、「聖書の大きい救いの物語」(ナラトロジー/物語論)としてアプローチするこの手法を、日本においていち早く導入した著者が、福音と、教会共同体の歴史の意味を新しい言葉で現代に向かって語りなおす。V(終末論)も刊行予定。

【聖書論】

I 啓示への問い

なぜ聖書が「神の言葉」として成立するに至ったのか。プロテスタントの聖書原理を取り下げることなく、「神の啓示」と解釈、礼拝共同体としての教会の本来のあり方を問う。

■A5判・356頁・3,500円

【神論/三位一体論】

II 神への問い

人間の神への問いに対して、神からの答えとしての「三位一体論」。神とは、イエスとは、聖霊とは。わたしたちの信じる神の姿をひとつとく。

■A5判・356頁・3,500円

【創造論】

III 創造への問い

創造信仰と自然科学の単純な対立構造ではなく、創造論から、世界と人間の存在の根拠と目的、キリストの出来事を開示。福音をより広く捉えなおし、伝道へと立ち向かわせるための一冊。

■A5判・440頁・4,500円

重版出来

教えてパスターズ!!



朝岡勝、大嶋重徳 著
■A5判・並製・220頁
1,500円(+税)

新装増補改訂版

神学のよろこび はじめての人のための 「キリスト教神学」ガイド



アリスター・E・マクグラス 著
芳賀力 訳
■四六判・並製・450頁
4,000円(+税)

全国のキリスト教書店員が選ぶ
「キリスト教書店大賞2019」ノミネート

青年伝道に関わるこのこと多い牧師二人が、誰もが抱える悩みや、キリスト教における疑問、質問に真正面から向き合い、一緒に考える一冊。

【Contents】

「礼拝が眠たい」「彼女がほしい!」「信じることがわからなくなった」「みこころどおりになるのにどうして祈る?」「洗礼は受けなきゃいけない?」「自分のことが好きになれない」など

キリスト教神学の本格的な入門書として教派を問わず広く読まれている一冊。使徒信条の告白に沿って、歴代のキリスト者たちが、この信仰をどう形作ってきたのかをわかりやすく解説。教会が信じている「信仰」とは何かを、自分の言葉で説明できるようにかづける。

章ごとに付してある読者に対する問いも、読者に「神学することへのはじめの一步を切り開く。教会の足腰を鍛えるために、信徒とともに読みたい。

キリスト新聞社 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1 TEL 03-5579-2432 FAX 03-5579-2433

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@afoc.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県船橋区2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	共用	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbob.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yokohata-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.cococan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビルF	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区西原字翁原777 沖縄キリスト教団内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※ 一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■教文館

ハイデルベルク信仰問答との対話

——信仰の宝を掘り起こす

G・プラスガー著／芳賀 力訳

16世紀に書かれたハイデルベルク信仰問答と対話しながら、キリスト教理解に大切な14の主題をわかりやすく解説する。

四六判・320頁・本体2900円

■新教出版社

バルト神学とオランダ改革派教会

——大森講座33

石原知弘著

オランダほどバルト神学を積極的に受容した国はなく、オランダほどバルト神学を厳しく批判した国もないと言われる。バルト神学が二〇世紀の教会にもたらした影響の象徴的な事例として、その歴史的経緯と神学的・教会的意味を考察する。

四六判・予価1200円

ゴスペルハーモニー——君に贈る5つの話

宮平 望著

ミヤヒラ教授が学生たちに語った、とっておきのキリスト教ストーリー。ドレミの謎、三位一体の数学、第一次大戦の休戦秘話、名詩「足跡」の福音、「グッドバイ」の神学的起源などなどハッとさせられる発見に富む。『ゴスペルエッセンス』『ゴスペルフォーラム』『ゴスペルスピリット』に続く第4弾。

四六判・予価1200円

INFORMATION

近刊情報

■日本キリスト教団出版局

詩編を読もう 下——ひとすじの心を

広田叔弘著

詩編を読む「旅」のガイドブック。詩の中で嘆きが賛美に変えられていくのを読みながら、私たちもまた、嘆きの底から引き上げられていこう。下巻では詩編の後半（70編以降）から20編を取り上げて解説。詩編と新約聖書と現代世界を自由に往還しつつ、詩編を読む喜びに私たちを招く。

四六判・224頁・本体2000円

■キリスト新聞社

土の器なれども——講演・随想・召命

賀来周一著

日本におけるキリスト教カウンセリングの第一人者であり、牧師、神学校教師として教会に仕え続けてきた牧会者である著者。すべての教会への励ましという言葉として、これまでの主だった講演と随想、召命から現在までの知られざる伝道者としての半生を綴る。

四六判・240頁・本体2200円

福音と世界

2019年9月号

特集 沖縄という問いかけ

寄稿者＝森啓輔、土井智義、大畑凜
成定洋子、村上陽子

書評 守中高明『他力の哲学』（白石嘉治）

報告 WCC・CCAエキュメニカル国際会議

（藤原佐和子）／新連載 教父学入門（土井健司）

／好評連載 パビロンの路上で Conferences of a

Son of a Preacher Man（ユリエル・ヤン）、神の酒（石

井光太）、福音の地下水脈（町田康）ほか

ほか

A5判・本体 588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

カードが出てきたら、その名前をいち早く叫んだ者が勝ちというゲームである。傍から見ていると、このゲームで盛り上がるのは、記憶力の勝負より、謎の生物に名前をつけることにあると気づいた。子どもには、瞬時に特徴を捉える感性と、端的に表現する直截さがある。それが面白い。私も参加させてもらい、カードをめくると落花生の形をした奇妙な生物が描かれていた。間髪を入れず「ソント

教会学校の子どもたちが「なんじゃもんじゃゲーム」に盛り上がっていた。ルールはいたって簡単で、順番にカードをめくり、表にイラストされている謎の生物に名前を付ける。それを全員で共有し、同じ

予告

本のひろば

2019年10月号

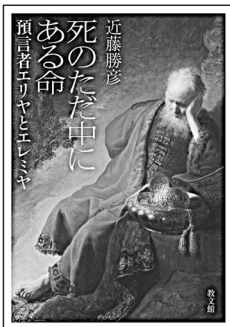
本・批評と紹介

特集「霊性の神学」を学び直すにはこの三冊！、大嶋重徳著『若者に届く説教』、大澤秀夫他監修・酒井 薫他執筆『かみさま、きいて』、ライオン・ホールド・ニーバー著『人間の本性』、マリオ・トルチヴィア著『ジョヴァンニ・バッティスタ・シドティ』他

ン・ザ・ピーナッツ」と名付けた。もちろんソントンは、日本にピーナッツバターの製法を伝えたジェシー・ソントン宣教師（一八七五―一九五八）のことである。社名としての「ソントン」は残っているので、牧師にはウケけたが、誰も笑ってくれなかった。

でも、私はめげない。「なんじゃもんじゃゲーム」に正解はないのだ。もともと架空の生物なのだから、どう名付けようと自由である。ゲームやクイズには正解がある。しかし、このゲームには正解がない。すべてが正解となる。誰が何と言おうと、クリスチャンにとって、落花生といえはソントンののだ。（寺田）

危機の時代
における信仰



死のただ中にある命

預言者エリヤとエレミヤ

近藤勝彦 著

使徒と預言者という土台の上に築かれた教会が、繰り返しい起こしてきた旧約の二人の預言者。彼らの内的葛藤と、神の契約の回復にかけ、命の言葉を語り続けた喜びの体験が、今を生きる信仰者に新しい慰めと使命を告げる。列王記とエレミヤ書の説教25編を収録。

● B6判 224頁・本体1,900円

ウイリアムス神学館叢書Ⅰ

今さら聞けないキリスト教!?

礼拝・祈祷書編 吉田雅人 著



聖公会の礼拝と祈祷書について知るならこの一書!
豊富な写真・図版・資料を用いながら、Q&A方式で素朴な疑問に答えます。
長らく品切れとなっていた聖公会出版版の復刊です。

● A5判・352頁・本体2,000円

好評既刊

ウイリアムス神学館叢書Ⅱ 今さら聞けないキリスト教!?

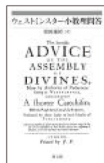
聖書・聖書朗読・説教編 黒田裕 著

聖書を書いたのは誰? 聖書朗読で気をつけることは? 説教とは何? などの知りたいけど聞きにくい疑問に一つ一つ丁寧に答えます。

● A5判 210頁・本体1,500円

ウエストミンスター小教理問答

袴田康裕 訳



好評につき重版!

厳密な教理と深い敬虔が一体化したピューリタンの霊性の結実として、時代・地域を超えて愛されてきた「ウエストミンスター小教理問答」。その最新の翻訳を携帯しやすい新書判で贈る。

● 新書判 64頁・本体800円

オニマンド復刊

新約ギリシヤ語逆引事典

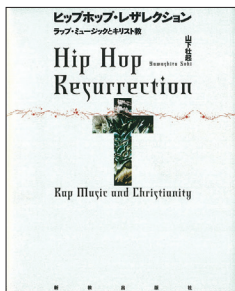
オンデマンド版 岩隈 直 監修

本辞典は新約聖書本文中に現れるすべての語形をアルファベット順に掲載、語形変化の説明を記し、原形をたどることができる。ギリシヤ語原典を学ぶために必携の一冊。

● B6変型判 366頁・本体6,500円

増補改訂





ヒップホップ・ラップ・ミュージックとレザレクション キリスト教

山下壮起 (阿倍野教会牧師) ヒップホップはなぜ繰り返し神や十字架を歌うのか。アフリカ系アメリカ人の宗教史を背景にラッパーたちの歌詞を聴き、その深い宗教性を浮かび上がらせた、気鋭の神学者による注目作。 ◆A5変型判・本体3200円

ゴスペルハーモニー

宮平望 (西南学院大学教授) 君に贈る5つの話

「ドレミの歌」や数字の「三」などにまつわるとっておきキリスト教秘話。 ◆B6判・本体1200円

アモス書講義

改革者の肉声!

ジャン・カルヴァン / 関川泰寛「監修」、堀江知己「訳」
ヘブライ語原典を自らラテン語に訳し、逐条的に入念なパラフレーズを行う。ジュネーブ大学で語られた講義の、ライブ感溢れる記録。 ◆A5判・本体5000円

夜と霧の明け渡る日に

未公開書簡、草稿、講演

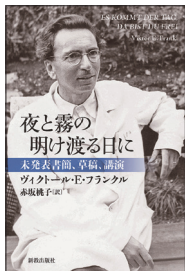
ヴィクトール・フランクル / 赤坂桃子訳

強制収容所からの解放と帰郷というフランクルの人生で最も重要な時期の伝記的な事実と、当時の中心思想の一端を、貴重な文書を用いて再構成。名著『夜と霧』誕生の背後にあった個人史と時代史の二つの文脈が初めて明確に交差する。 ◆四六判・本体2400円

協力と抵抗の内面史

富坂キリスト教センター編 戦時下を生き延びたキリスト者たちの研究

「戦争協力者」か「抵抗者」かといった一面的裁断を排す重層的視点。植民地下の現地のキリスト者にも着目する。教会史への新たな視角。 ◆四六判・本体2000円



一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一九年一月一日発行 毎月一回一日発行
本のひろば 第七四一号 二〇一九年九月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3260-6148 振替00170-511-6779
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 佛平河工業社
発売所 日本キリスト教出版株式会社 電話03-3260-6148

定価七八円(税抜七二円) 送料共
一年分一三〇〇円(送料共)